

史跡 千足古墳の石障（仕切石） を公開します

平成23年度に国指定史跡千足古墳の石室から取り出し、岡山市埋蔵文化財センターへ移動する緊急避難措置がとられた石障(仕切石)について、期間を限定し一般公開を行います。

1 日時

令和8年2月16日(月)～令和8年2月28日(土) 各日9時～16時30分(日曜日、祝日休館)

2 場所

岡山市埋蔵文化財センター収蔵展示室(中区網浜)

3 内容

平成21年度に、千足古墳石室内における石障(仕切石)の文様が損傷していることが明らかとなりました。その後の調査の結果、そのままの状態では、文様全体が失われる可能性が高いことが明らかとなったことから、急遽、平成23年度に石室から石障(仕切石)を取り出し、岡山市埋蔵文化財センターへ移動する緊急避難措置がとられました。その後、状態が安定したため、期間を限定して、毎年この時期に公開するものです。

千足古墳は、九州系の初期横穴式石室内に直弧文を彫刻した石障(仕切石)がおかれていることで著名で、古墳時代中期の吉備と九州の密接な関係を知ることができる重要な古墳です。

4 その他

〈千足古墳の石障(仕切石)とは〉

千足古墳の第1石室は石障と呼ばれる構造をもちます。この平面的に長方形となる内部の空間をさらに区切るため設置されたのが仕切石です。仕切石は2枚で構成され、大きい方の仕切石のサイズは、長さ約162cm、幅約52cm、厚さ約13cmを測ります。正面には直弧文、上面には鍵手文の彫刻があり、天草産と考えられる砂岩が用いられています。

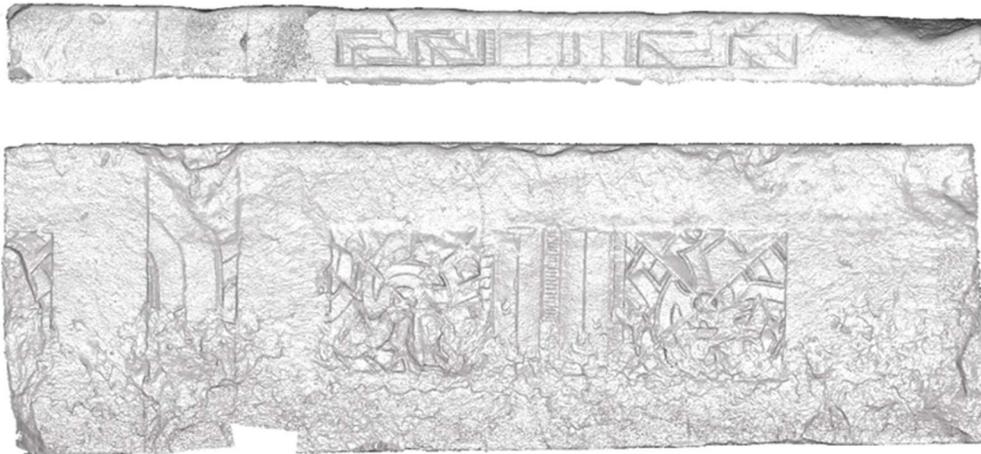
【問い合わせ先】

岡山市教育委員会 文化財課 原田 直通086-803-1611 内線3877

— 史跡千足古墳の石障(仕切石) —

岡山市教育委員会文化財課

岡山市北区新庄下の史跡千足古墳は、全長が300mを越える超巨大前方後円墳である史跡造山古墳の前方部前面に築かれた6基の陪塚群のうちの1基で、規模は約81mを測ります。史跡千足古墳の埋葬施設は、北部九州地域の古式横穴式石室で、肥後(熊本県)地域特有の石障(仕切石)には直弧文が刻まれており、九州と吉備のつながりを示す古墳として著名です。ところが、平成21年度に石障の文様が損傷していることが明らかとなりました。その後の調査で、そのままの状態では放置しておく、文様全体が失われる可能性が高いことが明らかとなり、急遽、平成23年度に石室から石障(仕切石)を取り出し、岡山市埋蔵文化財センターへ移動する緊急避難措置がとられました。その後、乾燥を経て状態が安定したため、期間を限定し一般公開を行います。



史跡千足古墳石障(仕切石)実測図